

作物名：きく

病害虫名：半身萎凋病（病原：*Verticillium dahliae* Klebahn）



写真1 被害株

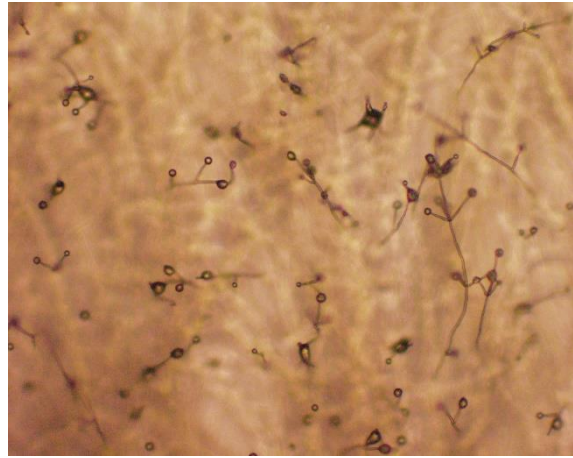


写真2 分生子柄と分生子

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- はじめ下位葉の葉身片側や先端に黄色～褐色の病斑を生じ、病勢が進むと葉は萎凋・枯死し、下位葉から上位葉に病勢進展する。病勢が激しいと株全体が萎凋し、枯死する場合もある。

### 2 伝染源・伝染方法

- 罹病植物において微少な菌核をつくり、土壤中に存在する。
- 菌核が発芽し、根から植物体に侵入する。
- *Verticillium* 属菌は菌核の状態でも土壤中に 10 年以上生存することが知られている。
- 罹病株からの挿し穂によっても伝染する。

### 3 発病しやすい条件

- 生育適温は 20～25℃である。

### 4 防除方法

- 菌核が長期間土壤中に存在するので、数年単位の輪作では防除効果は期待できない。
- 常発地では植え付け前に土壤消毒を行う。
- 罹病株は根ごと抜き、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- 増殖には健全株を用いる。

### 5 出典

#### (1) 参考文献

- 日本植物病害大事典(全国農村教育協会)

#### (2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和5年9月改訂)